

霧島市立国分南中学校「縄文の森ボランティアガイド」の取組

1 学 校 名 霧島市立国分南中学校

2 学年・人数 中学3年生40人程度

3 日時・場所

(1) 事前学習 7月10・11日(火・水) 2日間

講師；上野原縄文の森 職員 場所；本校図書室

(2) 現地研修 7月27日(金) 午前中

講師；上野原縄文の森 職員 場所；上野原縄文の森

(3) ガイド 8月2日～5日(木～日) 4日間 (延べ72人参加)

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称 国指定史跡【上野原遺跡^{うえのはらいせき}】(鹿児島県上野原縄文の森)

(2) 時代 縄文時代早期前葉

(3) 特徴

鹿児島県霧島市国分川内(校区)にある集落跡。錦江湾に接した標高約260mの上野原大地に所在する。縄文時代早期前葉から近世までの複合跡地で、大地中央から大地北縁にかけて延びる自然の浅い谷を利用した2筋の道に沿って広がり、竪穴式住居群を中心に集落遺構や連穴土坑などが整然と配置され、日本最古、最大規模の定住集落跡といわれている。

5 上野原縄文の森との連携の具体

本校は、上野原縄文の森開園前の遺跡復元公開時、1999年(平成11年度)から上野原遺跡のボランティアガイドを夏季休業中に実施している。2010年(平成22年度)までは、総合的な学習の時間、選択教科社会科で事前学習等を行ってきたが、2011年(平成23年度)からは教育課程を変更し、部活動を引退した3年生徒のボランティアを募り、夏季休業中に取り組んでいる。年度当初、郷土教育担当職員も同席した打合せを行い、双方で共通理解を図り、事前学習や現地研修で縄文の森職員と担当職員が連携しながら進めている。

6 活用の取組の工夫した点

(1) ボランティアへの意欲化

3年生を中心にしたボランティアガイドが数年続いているため、上級生から下級生へ引継ぎが十分できていない。募集開始時期は、積極的な参加が少なかった。

そこで、「郷土教育」の一つとして位置付け、全校集会、生徒会、学級・部

活動単位で呼びかけや紹介を重ねてきた。また、霧島市が推進している『褒め合うまちへ。キリシマイスター』と連携し、霧島市が生徒へバッチを授与したり、地域の会合やPTA等でその取組を紹介したりして、全校態勢で応援する雰囲気をつくっている。

(2) 教師や保護者の協力

予算は特になく、生徒の移動は保護者の送迎に頼っている。担当職員から協力依頼の文書を配布し、趣旨に賛同し協力を得やすい説明を心がけている。

なお、職員が現地に出向き、参加している生徒への声かけや励まし、時には観光客としてガイドを受ける等態勢づくりを進め、軌道に乗ってきている。

7 取組の様子



来園者にガイドをする生徒①

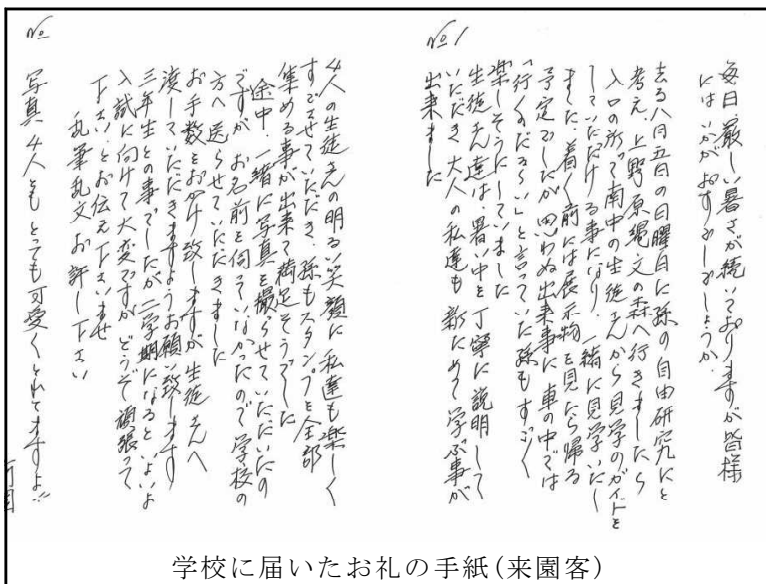


来園者にガイドをする生徒②

8 来園者、参加生徒の感想等

ガイドをした生徒に感想を聞くと、「貴重な経験ができて嬉しかった。」「楽しそうにガイドを聞いてくれた家族が多く、子どもが好きになった。」「郷土や歴史をもっと調べたい。」の声が多く聞かれた。

また、来園客の方から感謝のお手紙が学校に届いたり、新聞に記事が掲載されたりして、参加生徒の励みになっている。今後も双方で改善を重ねながら、より発展的なボランティアガイドの充実に努めていきたい。



学校に届いたお礼の手紙(来園客)



掲載された記事(南日本新聞)